

前 奏 黙想	祈 禱
頌 栄 539 あめつちこぞりて	讚 美 歌 521 イエスよ、こころに宿りて
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讚 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 詩編 16:5~6	主の祈り 564
ヨハネによる福音書 2:23~25	頌 栄 545 父のみ神に
讚 美 歌 166 イエスキミは	祝 禱
説 教 『迫害の中で主を信じる』	後 奏
長崎 哲夫 牧師	

ヨハネ伝には、主と弟子集団がファリサイ派の暴力的な迫害から逃れてヨルダン川の向うのベタニア(10:40)やエフライム(11:54)に身を隠す姿が見られ、その只中でイエスは神であると読者をして信じさせようと試みた書である。

ヨハネ伝は、共観福音書に最も強く平行している受難物語や復活物語に於いてさえどの一つをも直接利用してはいないと言った人がいるほどで、著者は各序文すらも未読ではないかとさえ思わせるものがある。ここに「イエス・キリスト」の呼称が 1:17 及び 17:3 の 2 ヶ所あり、それぞれ「恵みと真理」と「永遠の命」を知ることが願われているが、洗礼者ヨハネの扱いは特別で、「わたしは、光ではなく、光について証しし、全ての人が光を信じるようになるために来た」(1:7)と迫害の中多くの人を信仰に導くに労した人として鮮やかな扱いがある。彼は若くして時の権力者ガリラヤの領主ヘロデの結婚問題を批判して囚われ、主イエスの十字架の前触れのように犠牲者となる(マコ 6:14)。

迫害の中で主を信じる信仰と言えば、ヨハネ伝の執筆は 90 年代。自殺した皇帝ネロ(68)に継ぐ皇帝礼拝を強要し、ヨハネをパトモス島に流刑(黙 1:9/13:11)させたドミティアヌス帝(81-96)の迫害の嵐が逆巻く中ユダヤ教は現在の形で旧約聖書をほぼ完成させ、キリスト教会から完全に分離独立しただけでなく反って教会を苦しめた。

本文は、「多くの人がイエスの名を信じた。しかし、イエスご自身は彼らを信用されなかった」とやや刺激的な表現だが、続いて「それは、全てのことを知っておられ、人間について誰からも証ししてもらいが必要なかったからである。イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである」とあり、周知のようにこれはイエスの言葉ではなく、著者のイエスに関するコメントである。著者は、若き日兄ヤコブがステファノに継いでエルサレム教会の 2 人目の殉教者(行 12:12)となったガリラヤの漁師ゼベダイのボアゲルネ=雷の子(マコ 3:17)の弟ヨハネ。2 世紀前半カイザリアのエウセビオスも著者はヨハネだと言うが、執筆時ヨハネはすでにエルサレム教会の年老いた長老で、若き日ペトロ等よりイエスに近く(13:23)、書中「主の愛弟子」とだけで実名は一度も出さなかった。

このイエスに関するコメントは、前後に展開した「宮清め」と「ニコデモ」の件の間にあり、芝居なら短い幕間劇、コントとか能の狂言にも似て、前者を説明し後者の予告のような独立的な役目をする。ならばその真意は何なのか。カナはガリラヤの湖最大の小鳥の町ティベリアから急坂をバスで上がって、一件見逃してしまう木陰のひっそりとした村。此处であの婚礼があり、イエスが 2~3 メートル(39ℓ×2か3)の水瓶の水を葡萄酒に換え、母マリアを驚かせた。また当然面していた商売人等をエルサレム神殿から追い出し、夜主を訪ねたファリサイ派の議員ニコデモには「永遠の命」の説教をされていた主イエスの神の独り子の名として信じるや否やと問われていた。

詩編の信頼の書「主はわたしの運命を支える方。測り縄は美しい地を示し、わたしは輝かしい業を受けました」(16:5)をニコデモがどう読んだか分からないが、イエス十字架降下埋葬の奉仕はファリサイ派の目等ものともしなかった姿が見える。主を信じる信仰は人を変える。

(※長崎哲夫牧師には奇数月の第四主日に説教していただいています。次回は 9/24 です)

7/24(月)10:00~11:30 八ヶ岳教会の甲府聖研(山梨 YMCA)、使徒言行録を継続してみっちり読んでいます。7/26(水)11:00~12:00 聖研・祈祷会。7/29 田中孝雄兄の納骨式(横浜あおば霊園)。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。